

テキスト ルカによる福音書1章39～55節

〈信仰者の交わりの祝福〉

神の御使いより、「身ごもって男の子を産む」、「その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる」という、驚くべき御告げを受けたマリアです。神の御言葉を信じて受け入れたマリアでありましたが、心の内はどれほど驚きと不安でいっぱいであつたらうかと思われます。親類のエリサベトのことが指摘されており(1:36)、マリアは、すぐにエリサベトを訪ねて、驚きと不安を分かち合おうといたしました。

そのマリアを、祝福の言葉が迎えました。エリサベトの胎内の子が喜びおどるほど、マリアに与えられた幸いは大きいのです。エリサベトは、聖霊に満たされて、マリアと胎内の子が祝福されていることを語り、マリアを励まします。これから多くの困難がマリアを襲うでしょう。しかし、御言葉が必ず実現すると信じた者に与えられる祝福は、その困難を打ち砕いて余りあるほど大きいのです。「幸いなるかな、主がおっしゃったことが必ず実現すると信じた者は」。そう言って、エリサベトはマリアを慰め、カづけました。

ここには、信じる者たちが信仰の労苦と戦いを共に分かち合い、互いに励まし合う祝福が示されています。このような祝福ある交わりが、私たちにも与えられています。

〈マリアの賛歌〉

エリサベトの励ましにカづけられて、驚きと不安で心がいっぱいであつたマリアも、あらためて心を開いて、心のまなざしを神に向けます。私たちを用い、私たちを超えて、ご自身の大きなご計画を成し遂げられる神、その神へと心を向けるのです。

47節から55節は、「マリアの賛歌」(マグニフィカート)と呼ばれます。この歌の特徴は、冒頭の

言葉にあります。日本語の翻訳では語順が変わってしまうのですが、ギリシャ語原文では、「あがめる」が冒頭の言葉です。これが、「マグニフィカート」(ラテン語)という言葉の由来です。

この「マグニフィカート」とは、本来、「大きくする」、「拡大する」という意味です。すなわち、「あがめる」とは、神を大きくすること、主なる神が大きくなることなのです。

驚きと不安で心がいっぱいであつた時、マリアの思いは、自分自身に向いていたでしょう。これから何が起こるのか、どんな誤解と混乱が自分を待ち受けているか、それをどう乗り越えていくか、自分のその悩みや迷いがたいへん大きくて、自分の心の大部分を占めていたでしょう。しかし、信仰者が信仰者として歩むためには、私たち自身の思いを小さくして、むしろ神がどんなお方で、どれほど力強く大きなお方であるのか、そのことを思いめぐらすことが大切です。そして、神が大きくなり、私たちが小さくなるとは、私たち自身が失われてしまうようなことではありません。むしろ、神に造られた良きものとしての、ありのままの姿を回復させられることです。神の命に生かされる、本来の私たちとされるのです。神の大きさ、広さ、深さ、豊かさに心を目を向ける時にこそ、私たちの疑いや恐れと不安が取り除かれて、神への信頼と平安で心が満たされます。

マリアの賛歌は、ですから、自分についてへりくだり、謙そんであり、神を喜びほめたたえます。神のみわざを讃美します。もう一つの特徴は、思い上がる者、傲慢な者が打ち砕かれて、身分の低い者、へりくだる者が高められるという点です。神は、真の正義と公平をもたらしてください。ここに、救い主イエス・キリストのみわざが指し示されているとすることができます。(望月信)

テキスト ルカによる福音書1章39～55節

(単元のねらい)

心配と不安が心を一杯にし、大きくなっていくのではなく、むしろ神さまを心から信頼して、神さまを大きくしていったマリアの信仰を見ましょう。神さまをあがめるとは、神さまを「大きくしていく」ことです。子どもたちの心が、不満やいらいら、悲しみや不安、悩みや心配で一杯になる（大きくなる）のではなく、神さまが大きくされていくなかで、それらのものが小さくなっていくことを伝えていきたいものです。

「マリアのさんび」

天使ガブリエルからの知らせを聞いたマリアは、そのことを信頼できる人と分かち合いたくて、親戚であったエリサベトのところに行きました。エリサベトにも、神さまが不思議な業を起こしてくださったことを知っていたマリアは、エリサベトならマリアに起こることを理解し、受けとめることができると思ったからでした。そこでマリアがエリサベトに会うと、エリサベトにはマリアがどんな人であるかが分かりました。エリサベトはマリアよりずっと年上の人でしたが、自分よりずっと年の若いマリアは、主が約束なさったことはかならずそうなると思える信仰の深い人だと分かったのです。マリアはすでに天使ガブリエルを通して神さまに、「お言葉どおりこの身になりますように」と祈り、自分を神さまにささげていました。そのような信仰をもったマリアは、神さまからとても祝福された人だとエリサベトには分かったのです。マリアが、神の子イエスさまのお母さんに選ばれたのは、マリアが神さまを恐れ、神さまに心から従う、素直な信仰をもっていた人だったからでした。しかしここでマリアが言った、神さまの「お言葉どおり」ということで意味することは、マリアが焼き殺されるか、石で打ち殺されることになるかもしれないという、自分についての不幸な出来事をも含んでいました。しかしマリアは、それらのことも含めて、これらの約束の全部を受け入れたのです。わたしたちも、マリアのように「主のおっしゃったことはかならず実現

すると信じ」、神さまを信頼して、祝福される本当に幸いな人になりたいですね。

そしてここで、このように小さな自分をかえりみて、祝福してくださった神さまに感謝して、マリアは賛美をささげました。それは小さな自分、身分の低い、卑しい自分を、神さまは軽んじたり、ばかにしたり、恥をかかせたりすることなく、目を留めて、幸いを与えてくださったと感謝するのです。そして自分は偉い、自分はすごいと思いがっている人を低くして、みんなから卑しめられたり、ばかにされている人を高く引き上げてくださるのです。

このマリアの賛美は、実はサムエルのお母さんのハンナの賛美（サムエル記上2章1～10節）に似ています。ハンナの賛美も、低くされている人を神さまが高く上げてくださることを賛美したもので、これまで多くのイスラエルの人々、とりわけ女の人たちを励まし、希望を与えてきた賛美なのでした。マリアも、このハンナの賛美をロブさみながら、つらいとき、悲しい時に、慰めと励ましを得ていたのではないのでしょうか。そして同じ神さまの恵みが自分の上にも実現した時に、自然と口をついて出て来たのが、このハンナの賛美だったのでした。

ここでマリアは「わたしの魂は主をあがめると歌います。わたしは神さまを賛美するということですが、それはどういうことでしょうか。神さ

まを「あがめる」とは、どういうことなのでしょう。この「あがめる」という言葉は、「大きくする」という言葉です。つまり神さまをあがめるとは、神さまを「大きくする」ということなのです。自分の心の中で、思いの中で、神さまを大きくしていくこと、それが神さまをあがめ、賛美するということなのです。

今、あなたの心の中を一杯にしているのは何ですか。ほしい物のことですが、したいと考えていることですか。こうなってほしいと願っていることでしょうか。わたしたちは、心の中でいつも、何かを大きくしています。しかしそれはかならずしも自分の思いや願いどおりにならなくて、むしろ不平や不満、文句やいらいらが心を一杯にし、

ふくらませていくかもしれません。そうではなく、わたしたちはいつも、神さまを大きくしていきたいですね。心に神さまが満ちあふれるとき、喜びと感謝も心に一杯になるのです。マリアには、きっとこれから先どうなるかといった不安や恐れもあったかもしれません。しかしマリアは、それを心の中で大きくするのではなくて、むしろ神さまへの信頼を大きくしていきました。心の中で神さまが大きくなっていく時、わたしたちの心の中の恐れや不安、心配や悲しみや、小さくなっていくのです。わたしたちの心の中で、いつも神さまが大きくなっていくことを、祈り、願っていきましょう。

(三川栄二)

[今日の暗唱聖句] ルカによる福音書1章47節

わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。

〈ねらい〉

自分の心の中を自分のことではなく、神さまのことでいっぱいにする時に、悲しみや不安は小さくなってゆくことを覚える。

〈展開例〉

みんなはうれしいことで心がいっぱいになった時、思わず歌いたくなることってあるよね。天使によって救い主のお母さんになることを告げられたマリアさんも、喜びで心がいっぱいになって歌いました。その歌が今日の聖書の箇所に乗っています。でもマリアさんは、他の女の人ではなくてこのわたしが選ばれたからうれしい、と喜んだのではないのです。神さまがこんな小さなわたしのことをお心に掛けてくださったということを楽しんだのです。そして神さまをあがめ、喜びたえました。この、「神さまをあがめる」という言葉は、「神さまを大きくする」ということです。マリア

は神さまのことで心がいっぱいだったから、不安や恐れに負けませんでした。

わたしたちの心の中は今、何でいっぱいですか。好きなテレビのこと？新しいゲームのこと？でも、そういうことで心がいっぱいになると、思うように行かなかった時、不平不満が心の中にいっぱいになってしまいます。わたしたちもマリアさんのように、神さまのことで心がいっぱいになりたいですね。神さまのことで心がいっぱいになる時、わたしたちの心の中にある不安や恐れや文句などは少しずつ小さくなっていきます。そして心から神さまをあがめ、讚美することができるようになるのです。

〈お祈り〉

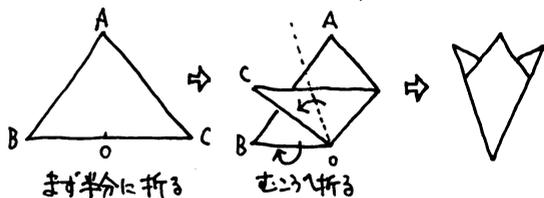
神さま、どうかわたしたちの心を、神さまのことでいっぱいにしてください。イエスさまのお名前でお祈りいたします。アーメン。

〈やってみよう〉

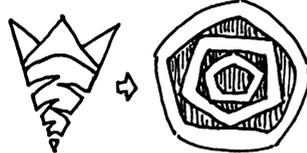
工作をしよう！

美しい切り絵をつくろう！

① 色紙を下のよう折ってゆく。



② 自由に切って広げる



※ 黒い紙でつめて裏から色紙のフタをはり、ステンプグラスのようなかざりがなるよ！

〈ねらい〉

マリアの喜びは、神様への信頼がもとになっていること。

自分の事を考えるよりも神様の事を喜ぶ事によって、自分も嬉しくなっていく。

〈展開例〉

礼拝で聞いたお話を思い出しましょう。

○エリサベトのところに行ったマリアは、神様のことを「すごいなあ」と喜ぶ歌を歌いました。

それは、ほんとに何もすごいところのない、ちっけな自分を神様を選んでくださって、救い主を産むという素晴らしいことをさせてくださるからでした。

まだ結婚していないマリアが赤ちゃんを産むということは、マリアにとって心配な事もたくさんあったのですが、マリアは、大好きな神様がいつも「自分にいつも一番良い事をしてくださる」ことを知っていたので、とても嬉しかったのです。

※神様はマリアにしてくださったように、私たちにも一番良い事をしてくださいます。教師がそのことを喜び、子どもたちに教師の喜びを伝えましょう。

○私たちにはいろんな心配事があります。でも、そのことばかり考えていると、心配事が心の中でどんどん大きくなって、心の中の神様の場所がどんどん小さくなってしまいます。すると、私たちの心はいつそうしゅんとしてしまうのです。

マリアが神様のすばらしいことをいっぱい考えて心配事を小さくしてしまったように、私たちも神様のしてくださった良い事を数え上げてみましょう。

※繰り返しになりますが、アドベントは神様が私にくださった最大のすばらしいもの「救い主」を喜び準備の期間です。

子どもたちとともに神様のしてくださった「良い事」を数え上げ、その頂点に救い主を置く事を語りましょう。

〈ちいさなお祈り〉

○神様が私にしてくださる「良い事」を見つけることができますように。

○イエス様のお誕生という神様が下さった「良い事」を喜ぶ事ができますように。

〈やってみよう〉

- ① この一週間の中でうれしかったこと、楽しかったこと、良かったことを三つ以上思い出して書いてみましょう。
- ② 今、喜べることを三つ以上書いてみましょう。

例) 自分の大好きな食べ物が夕食に出てきた。
けんかしていたお友だちと仲直りできた。
さがしていた大切なものが見つかった。 など。

〈ねらい〉

「神様をあがめる」とは、心の中で「神様を大きくしていくこと」であることを学び、私たちも共に神様をあがめることができるよう導き、励ましたい。神様の愛の大きさに心をむけ、感謝しつつクリスマスを迎えられるよう備えたい。

〈展開例〉

○みんなで考えてみよう。

- ①天使のこぼれを聞き、親類のエリサベトの家に向かうマリアの心の中は、どの様な気持ちだったでしょう。
- ②エリサベトからの祝福のこぼれを受けて、マリアはどうしましたか。
- ③「神をあがめる」とは、どういうことですか。
- ④私たちの心はいつも神様をあがめているのでしょうか。
- ⑤「神をあがめる」ことにより、私たちの心はどう変えられていくのでしょうか。

○みんなでやってみよう。

- ①今、あなたの心の中で、大きくなっていること

は何ですか。具体的に書きだしてみましょう。

- ②神様はどんなお方だと思いますか。いくつでも書き出してみましょう。

☆神様の偉大さ、愛の大きさ、素晴らしさに目を向けられるように導いてください。

☆複雑な友だち関係、身近におこる様々な事件等、子どもたちなりに多くの不安や心配をかかえていることがあるかも知れない。神様に心の目を向け、祈り合い、励まし合えるようにしたい。

〈暗唱聖句〉

わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。

ルカ1:47

〈折り〉

神様、「主のおっしゃったことは必ず実現する」と信じたマリアのように、私たちが心から神様を信頼し、あがめることができるようにしてください。アーメン。

ねらい

- マリアの謙虚さと信仰にならう。
- 「マリアの賛歌」のすばらしい歌を味わう。

展開例

- マリアがエリサベトを訪ねた時の、胎児であるヨハネと主イエスの関係が興味深い。マリアの声を聞いてヨハネが胎内で喜びおどる。生涯の縮図を見ているようである。
- 神を大きくし、私たち自身は、小さくなる。しかし、それは、私たちが失われることではない。神によって生かされ、神の恵みの器とされるのである。

- 神は、思い上がる者を低くし、マリアのように謙そんな者を高く引き上げられる。私たち自身を省みさせられる歌である。

話し合ってみよう！

- 「マリアの賛歌」は、冒頭の言葉から、「マグニフィカート」と呼ばれる。クリスマスソングとして多く歌われているので、音楽鑑賞をするとうい。

祈り

- マリアの信仰と謙そんなにならう者とならせてください。

○暗唱聖句○

ルカ福音書1:47

○祈りの課題○

聖書日課

日	ルカ福音書	1章39～45節
月	ルカ福音書	1章46～56節
火	イザヤ書	30章18～26節
水	イザヤ書	32章1～8節
木	イザヤ書	32章15～20節
金	イザヤ書	33章2～6節
土	イザヤ書	35章1～10節

☆三日記☆